

N11b **Be星 EW Lac の V/R 変動期 (1976-1985) における円盤の構造 I. 分光データの解析**

門正博 (大阪樟蔭女子大)、鈴木雅一 (金沢工大 OB)、小暮智一 (京都大 OB)

EW Lac は、高速自転する早期 B 型輝線星 (B3IIIe,shell) である。20 世紀初めに輝線が知られるようになり、20 世紀中頃からガス殻吸収線が認められている。1976 年から 1986 年頃にかけて V/R 変動を示した。今回はこの間の Balmer 系列線の輝線およびガス殻吸収線の強度、視線速度について再測定をおこない、変化の全体的な特徴を明らかにした。得られた結果の概要は以下のとおりである。

1) V/R は、1976 年にいったん小さく減少してから、 $H\delta$ から $H\alpha$ の順に増加し始め、1979 年 5 月頃にほぼ同時に最大値を取る。その後減少を始め、 $H\delta$ から $H\alpha$ の順に 1980 年から 1983 年にかけて最小値に至り、ゆっくりと回復する。H は 1985 年に $V=R$ となり、1986 年には $V>R$ となっている。

2) 輝線ピークの視線速度は、V/R と平行する小さな変化を示すが、ピーク幅の変化は見られない。

3) ガス殻吸収線の強度は、1970 年から 1974 年にかけて強くなっているが、V/R 変動期に強度の変化は見られない。

4) $H20$ のガス殻吸収線の視線速度は、V/R と平行な変化を示す。しかし、 $H\alpha$ から $H\delta$ の視線速度には、はっきりとした相関が見られない。本表題の講演は 2 つに分れ、ここでは分光解析の結果を報告する。